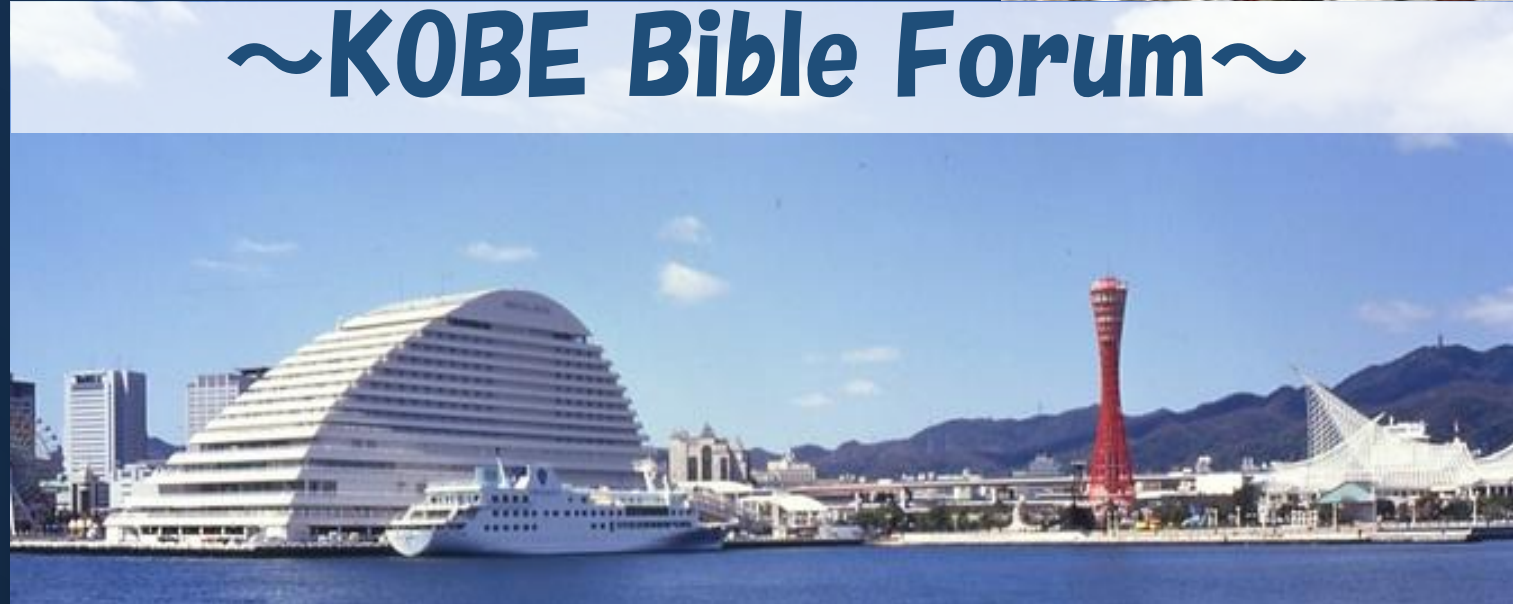


Bible Forum in KOBE

~KOBE MOTOMACHI Bible Forum~



~KOBE Bible Forum~



**ニックネーム
KBF(神戸ビーフ)
KMBF(コンビーフ)**

第1回 神戸元町聖書フォーラム

クレイ聖書解説コレクション
「ヨハネの黙示録」講解

黙示録1：1～1：20

2016/1/30（土）スタート

お願い！

このパワーポイント資料は

Clay クレイ聖書解説コレクション 「ヨハネの黙示録」

を基に作成しております。

ハーベスト・タイム・ミニストリーズから発売の
電子書籍版か書籍版(紙版)テキストと合わせて
必ずご参照・ご活用下さい！

*神戸聖書フォーラムでまとめ買いしております。
お求めの際はお気軽にお声掛け下さい。

1. イントロダクション

1. 神のご計画の全貌（全体構造）を再確認！



2. 終末論の全貌（全体構造）を再確認！



3. 「ヨハネの黙示録」の全体構造を再理解！

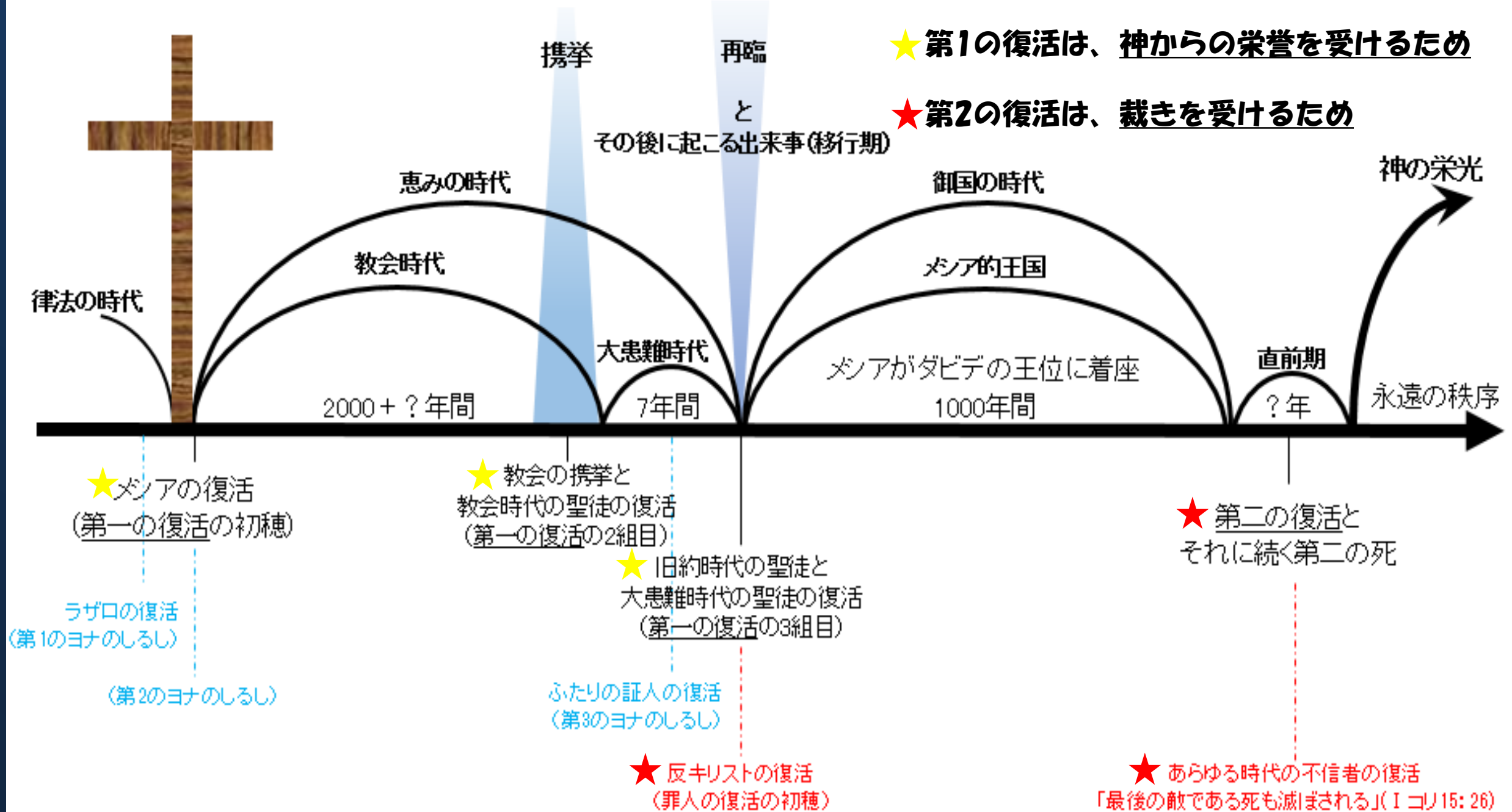
全体構造理解の大前提！

ティスペンセーションリズム

定義「ティスペンセーションとは
神の計画が進展していく過程において出現する
明確に区分可能な神の経緯（時代・時代区分）

- (1) 聖書を字義通りに解釈
- (2) イスラエルと教会を一貫して区別。
神がユダヤ民族と
アブラハム契約を結ばれたこと
それが永遠の契約であることを認める。
- (3) 歴史を貫くテーマは「神の栄光」

時代区分	過去					現在	未来	神の栄光 時間を 超越した 永遠の秩序 <u>黙21:1</u> <u>～22:5</u>
	① ～無垢の 時代～	② ～良心の 時代～	③ ～人間による 統治の時代～	④ ～約束の 時代～	⑤ ～律法の 時代～	⑥ ～恵みの 時代～	⑦ ～御国の 時代～	
聖書箇所	創1:28 ～3:8	創3:9 ～8:14	創8:15 ～11:32	創12:1 ～出18:27	出19:1 ～使徒1:26	使徒2:1 ～黙19:21	黙20:1 ～10	
中心人物	アダム	アダム	ノア	アブラハム	モーセ	パウロ	メシア	
1. エデン契約 聖書箇所	→ ・創1:26～31・創2:16～17							
2. アダム契約 聖書箇所		【2】→ ・創3:14～19						
3. ノア契約 聖書箇所			【3】→ ・創9:1～17					
4. アブラハム契約 聖書箇所				【4】→ ・創12:1～3 ・創12:7 ・創13:14～17 ・創15:1～21 ・創17:1～21 ・創22:15～18				
5. モーセ契約 聖書箇所					【5】→ ・出19:3～8 ・広くは出20:1～31:18			
6. 土地の契約 聖書箇所				→【6:土地】→	・申29:1～30:1 *特に申29:1に注目			
7. ダビデ契約 聖書箇所				→【7:子孫】→	・Ⅱサム7:11b～17(ソロモン強調) ・Ⅰ歴17:10b～15(メシア強調)			
8. 新しい契約 聖書箇所					→【8:祝福】→ ・エレ31:31～34			



序言「まえがき」(1:1~3) -----> 1:1「イエスキリストの黙示」

まえがき(1:1~3) 2

あいさつ(1:4~8) -----> 1:7「黙示録のテーマ」

あいさつ(1:4~8) 3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20) -----> 1:19「黙示録のアウトライン」

執筆の経緯(1:9~11) 4

栄光の王としてのキリスト(1:12~16) 5

幻の解説(1:17~20) 6

七つの教会の意味(1:17~20) 7

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1~18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

→ 再臨までのプロセス

----> クライマックスは再臨

結論(22:6~21)

★ 本日
第1回

1) 1 : 1 「イエスキリストの黙示」

「1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。」

2) 1 : 7 「黙示録のテーマ」

「 1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。 地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。 しかり。 アーメン。 」

3) 1 : 19 「黙示録のアウトライン」

「1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。 」

黙示録の要点

(1)黙示録のテーマは、**主の再臨とそのプロセス**(黙1:7)

(2)再臨の条件は、**ユダヤ人の民族的回心**(ゼカリヤ12:10)

(3)終末論の出来事の流れ

携挙→大患難時代→ユダヤ人の民族的回心→メシアの再臨→千年王国

(4)大患難時代の反ユダヤ主義の最大目的は、霊的なもの**(再臨の阻止)**

(5)執筆経緯は「**迫害の中にいる人々**」と「**教会全体**」への励ましと矯正

「22:7 見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを**堅く守る**者は、幸いである。」

「堅く守る」とは、「心に留め見張っている状態」を言います。

黙示録のテーマを理解し、主の大いなる再臨の日を待ちましょう！

そして再臨の条件であるユダヤ人の民族的回心を祈りつつ、教会としての責務を果たしましょう！

ユダヤ人のために祈る 詩122:6

「エルサレムの平和のために祈れ。
『おまえを愛する人々が栄えるように』」

- ①この祈りをする人は、祝福される。
 - *ユダヤ人を祝福する者は、祝福される
 - *ユダヤ人を呪う者は、呪われる。
- ②エルサレムの平和は、メシアの再臨によって成就
- ③メシアの再臨は、ユダヤ人の救いが前提条件となる。
- ④従って、ユダヤ人の救いのために祈ることが重要である。

II.第1回) 黙示録1章アウトライン

はじめに

- ①黙示録について
- ②解釈学の原則について

- (1) 1:1～3 「まえがき」
- (2) 1:4～8 「あいさつ」
- (3) 1:9～11 「執筆の経緯」
- (4) 1:12～16 「栄光の王としてのキリスト」
- (5) 1:17～20 「幻の解説」
- (6) 1:17～20 「七つの教会の意味」

III. 今後学ぶことの展望(最終回まで)

序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3)

2

あいさつ(1:4～8)

あいさつ(1:4～8)

3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

執筆の経緯(1:9～11)

4

栄光の王としてのキリスト(1:12～16)

5

幻の解説(1:17～20)

6

七つの教会の意味(1:17～20)

7

← 第1回(1/30)

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

← 第2回(2/27)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

← 第3回(3/26)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

← 第4回(4/16) 6～7章、第5a回(5/28) 8～9章

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

← 第5b回(5/28) 10～11章、第6回(6/25) 12～14章

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

← 第7回(7/16)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1～18:24)

← 第8回(8/27)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

← 第9回(9/24) 19章

4. メシア的王国(20:4～6)

← 第10回(10/29) 20章

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

← 第11回(11/26)

結論(22:6～21)

← 第12回(12/24)

IV. 結論：この時代に生かされている 特権と責務とは

- (1) 黙示録のテーマについて
- (2) 執筆の経緯について
- (3) 栄光の王としてのキリストについて

このメッセージは、ヨハネの黙示録
第1章について学ぼうとするものである。

ここからが本論！

...

はじめに① 黙示録について

1.旧約聖書と黙示録の関係

- (1)旧約聖書からの直接引用はないが
旧約聖書との関連箇所は、550カ所
- (2)黙示録1章～20章の内容は
旧約聖書ですでに預言されている。
- (3)黙示録21章～22章が新しい内容である。
 - *旧約聖書の預言の頂点は、メシア的王国である。
 - *黙示録の頂点は、永遠の秩序である。

2. 黙示録の価値

- (1) 旧約聖書に点在する預言を成就の時間順に並べている。
- (2) 旧約聖書との関連箇所が約550カ所あるのはそのため
- (3) 最後に、永遠の秩序が登場する（全く新しい預言）

はじめに②

解釈学の原則について

1. 解釈学の原則

(1) 字義通りの解釈 (Literal interpretation)

- ① 機械的な解釈ではなく、最も自然で、単純な解釈。
- ② 比喩的表現を否定するわけではない。
比喩は比喩として読む。

(2) 信仰の類比 (Analogy of faith)

- ① 聖書が聖書を解釈する。
- ② 聖書は、一つのまとまりを持った書物として
解釈されるべき
- ③ 複数の解釈が可能な場合
他の部分と矛盾しない方を採用

2. 二重言及の法則

～The Law of Double Reference～

(1) 時間的に隔たりのある二つの出来事を
類似性や相関性があるという理由で
あたかも一つの出来事であるかのように表現する。

(2) **イザ11:1～5の場合**

① **1～2節はメシアの初臨**

② **3～5節はメシアの再臨**

イザヤ書11章1-2節（初臨）

11:1 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。 11:2 その上には主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。

イザヤ書11章3-5節（再臨）

11:3 この方は主を恐れることを喜び、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判断を下さず、 11:4 正義をもって寄るべのない者をさばき、公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、口のむちで国を打ち、くちびるの息で悪者を殺す。 11:5 正義はその腰の帯となり真実はその胴の帯となる。

**(3)二重成就の法則(The Law of Double Fulfillment)と
混同しない！**

**①ある預言は、近いと遠い将来の
2度の成就があるという立場**

②これは、意味の単一性のゆえに認めることができない。

3. 象徴（シンボル）の解釈

(1) 極論A

- ① 象徴が多いので、字義通りの解釈は不可能である。
- ② 善と悪の対立という全体像を理解すればそれでよい。

(2) 極論B

- ① 象徴を、時事ニュースと関連させて解釈する。
- ② その結果、空想的、恣意的解釈となる。

(3) 正しい解釈

- ① 象徴（シンボル）の意味は、旧約聖書を通して一貫
- ② 例外もあるが、ほとんどの場合そう言える。
- ③ 信仰の類比という原則を適用して解釈する。

4.再記述の原則

～The Law of Reference～

- (1)より詳細な情報を加えるために
同じ出来事に関する記述が繰り返し出てくる。
- (2)創1:1～2:3と2:4～25
 - ①創1:1～2:3は6日間の創造と7日目の安息を描いている。
 - ②創2:4～25は6日目のアダムとエバの創造に焦点
- (3)エゼ38:1～39:1～16
 - ①38章はロシアによる侵略とそれに続く
ロシアの崩壊を預言
 - ②39章は同じ出来事に詳細な情報を付加している。

黙示録1章

～序言、あいさつ、ヨハネが見た事：栄光に輝く人の子～



序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3)

*イエス・キリストの黙示

2

*すぐに起こるはずの事

あいさつ(1:4～8)

あいさつ(1:4～8)

3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

執筆の経緯(1:9～11)

4

栄光の王としてのキリスト(1:12～16)

5

幻の解説(1:17～20)

6

七つの教会の意味(1:17～20)

7

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

2) 1 : 1 ~ 3 「まえがき」

「1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。」

御使いたちを通して

ガラテヤ3：19

3:19 では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。

使徒7：53

7:53 あなたがたは、御使いたちによって定められた律法をうけたが、それを守ったことはありません。

序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3)

2

あいさつ(1:4～8)



あいさつ(1:4～8)

*アジアにある七つの教会へ

*黙示録のテーマ(1:7)

3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

執筆の経緯(1:9～11)

4

栄光の王としてのキリスト(1:12～16)

5

幻の解説(1:17～20)

6

七つの教会の意味(1:17～20)

7

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

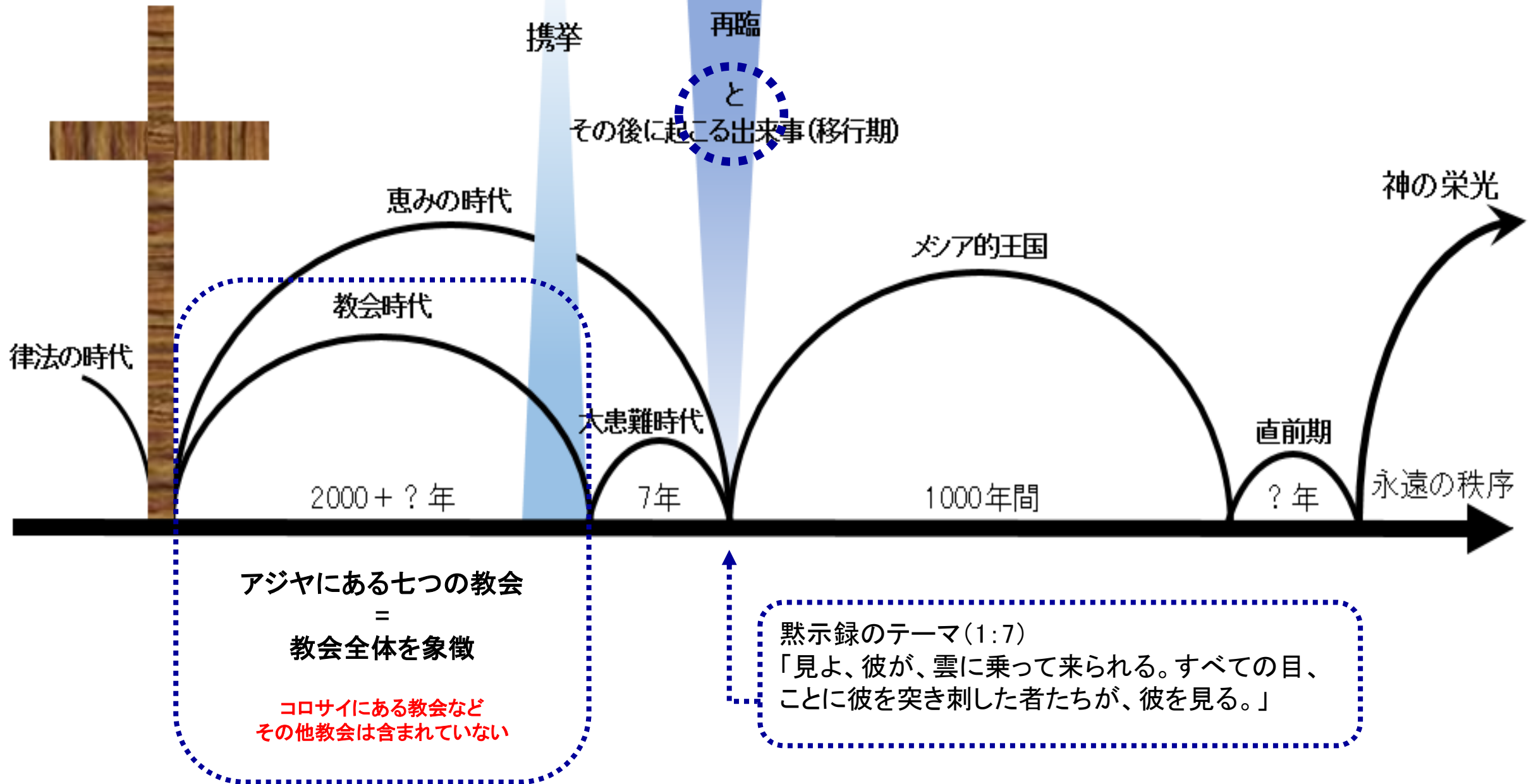
6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

3) 1 : 4~8 「あいさつ」

「1:4 ヨハネから、アジヤにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、1:5 また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。 イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、

1:6 また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。 キリストに栄光と力とが、とこしえにあるように。 アーメン。 1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。 1:8 神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。『わたしは**アルファ**であり、**オメガ**である。』」



携挙

再臨

と

その後起こる出来事(移行期)

恵みの時代

教会時代

律法の時代

2000 + ? 年

アジヤにある七つの教会
=
教会全体を象徴

コロサイにある教会など
その他教会は含まれていない

大患難時代

7年

メシア的王国

1000年間

直前期

? 年

神の栄光

永遠の秩序

黙示録のテーマ(1:7)

「見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、
ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。」

七つの霊

イザヤ書11章2節

11：2 その上には主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。



序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3)

2

あいさつ(1:4～8)

あいさつ(1:4～8)

3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)



執筆の経緯(1:9～11)

*バトモス

4

*主の日

栄光の王としてのキリスト(1:12～16)

5

幻の解説(1:17～20)

6

七つの教会の意味(1:17～20)

7

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

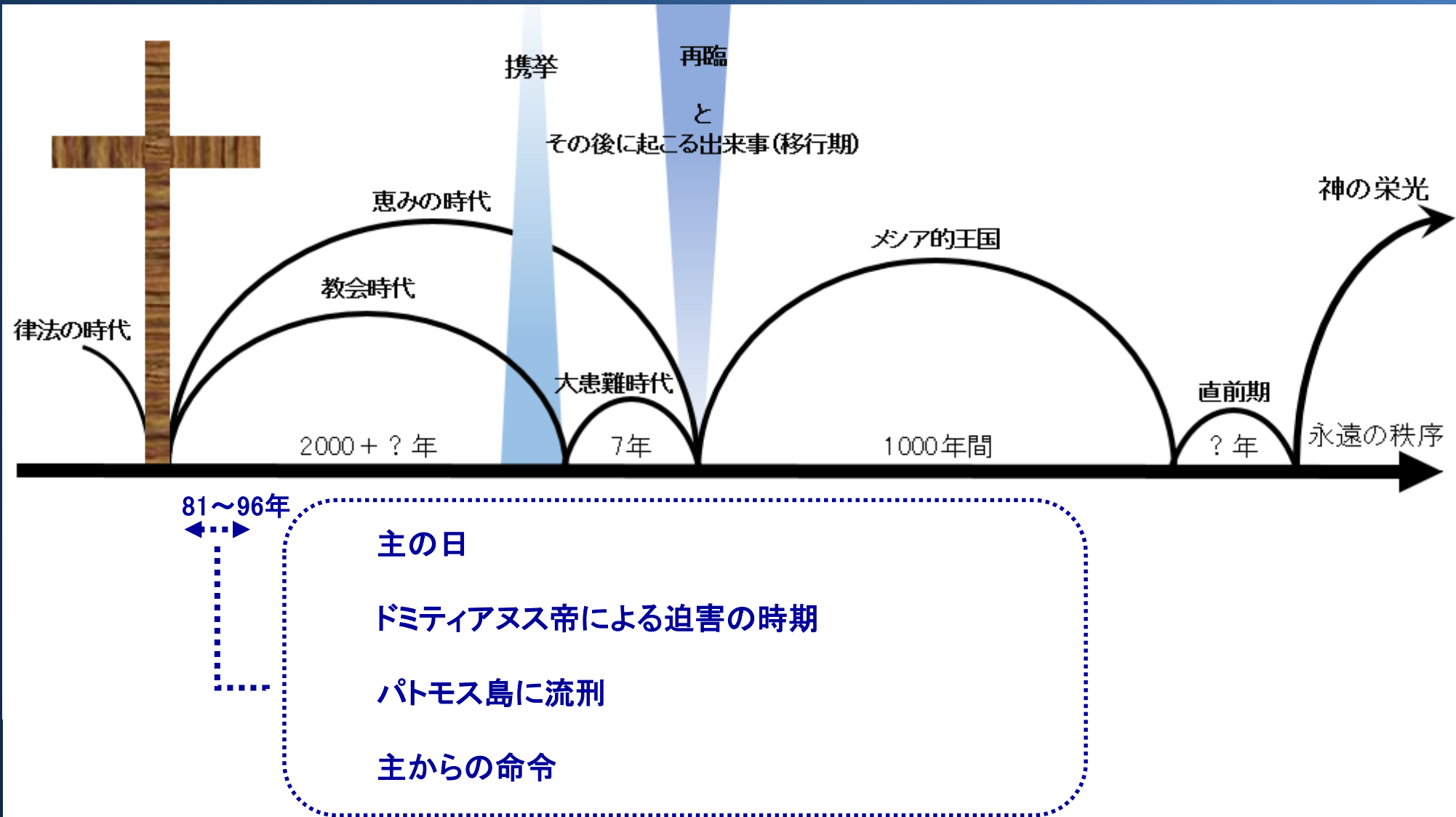
結論(22:6～21)

4) 1:9~11 「執筆の経緯」

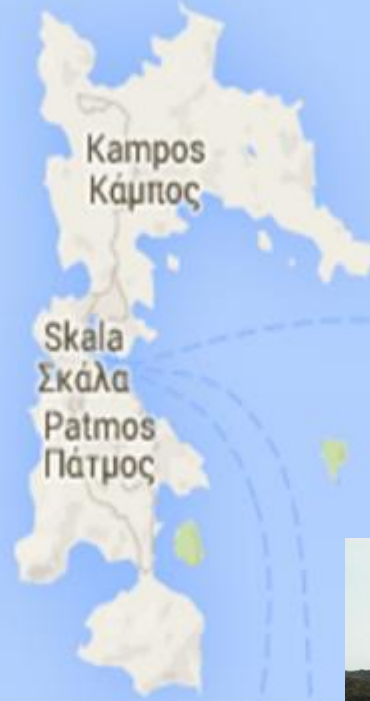
「1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

1:10 私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。 1:11 その声はこう言った。『あなたの見ることを巻き物にするして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。』」

主の栄光が輝きでた特別な日



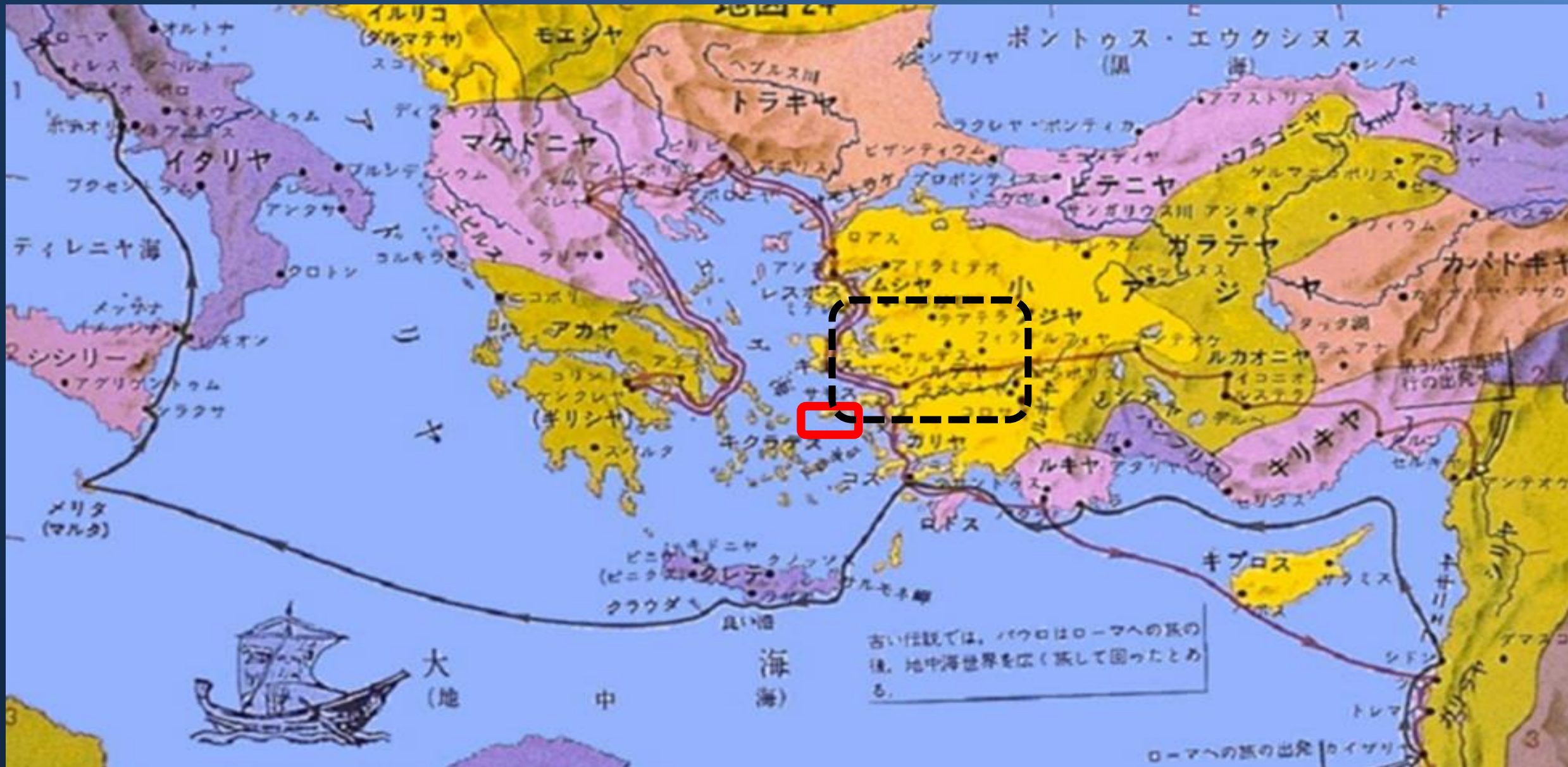
パトモス



アジアにある7つの教会



当時の世界には7つの教会以外に、多数の教会が存在した



序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3) 2

あいさつ(1:4～8)

あいさつ(1:4～8) 3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

★ 執筆の経緯(1:9～11) 4

★ 栄光の王としてのキリスト(1:12～16)

*七つの金の燭台 5

*主イエスの姿

幻の解説(1:17～20) 6

七つの教会の意味(1:17～20) 7

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

5) 1 : 12 ~ 16 「栄光の王としてのキリスト」

「1:12 そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。 振り向くと、七つの金の燭台が見えた。

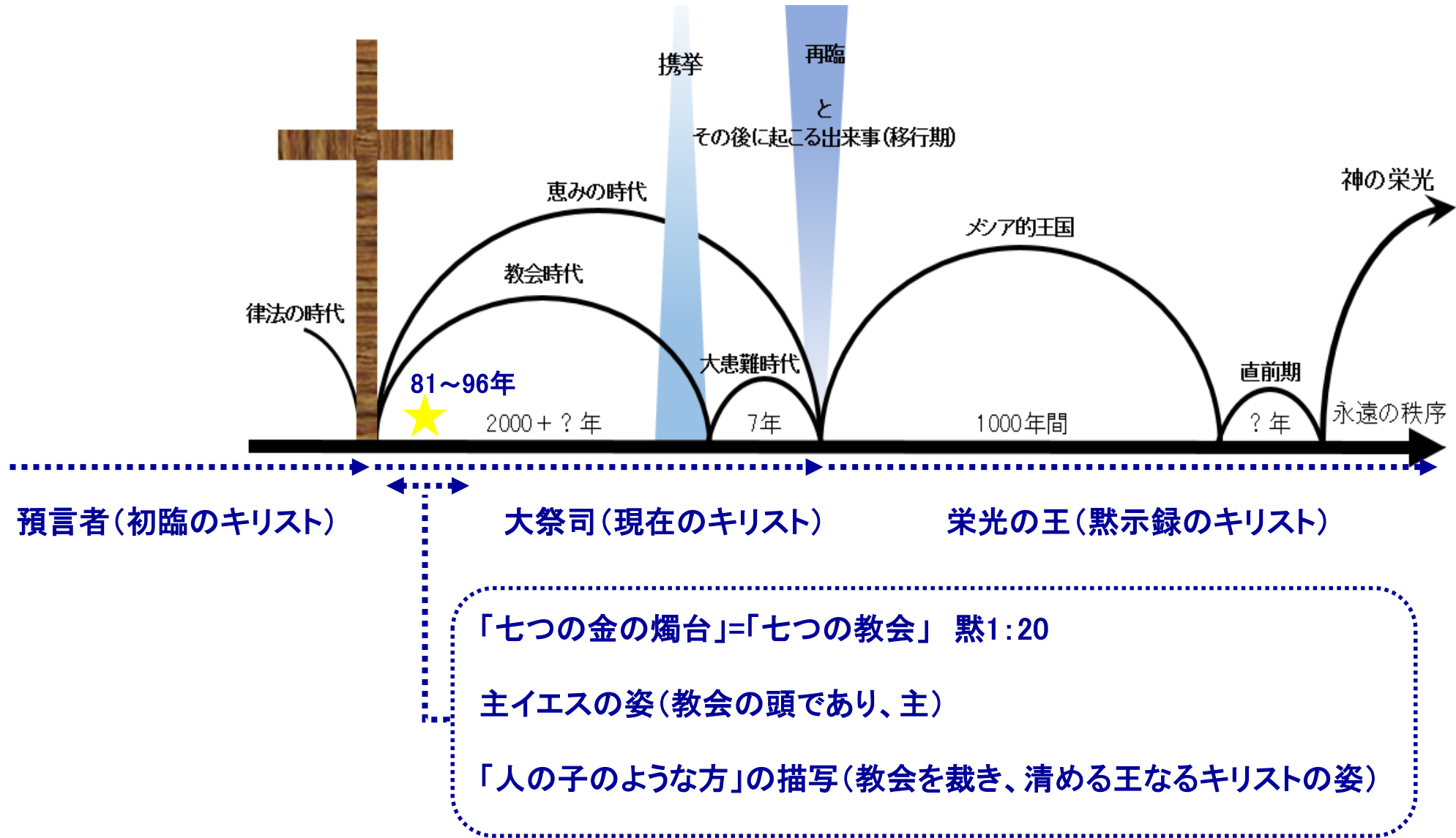
1:13 それらの燭台の真中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。

1:14 その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。 1:15

その足は、炉で精練されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。 1:16 また、

右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。」

主の栄光が輝きでた特別な日



序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3)

2

あいさつ(1:4～8)

あいさつ(1:4～8)

3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

執筆の経緯(1:9～11)

4

栄光の王としてのキリスト(1:12～16)

5

幻の解説(1:17～20)

*恐れるな

6

*黙示録のアウトライン(1:19)

七つの教会の意味(1:17～20)

7

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

{1}大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

{2}大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

{3}大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

{4}反復: 2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

6) 1:17~20 「幻の解説」

「1:17 それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。『**恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。1:20**わたしの右の手の中に見えた**七つの星と、七つの金の燭台**について、その秘められた意味を言えば、**七つの星**は七つの教会の御使いたち、**七つの燭台**は七つの教会である。』

序言「まえがき」(1:1～3)

まえがき(1:1～3) 2

あいさつ(1:4～8)

あいさつ(1:4～8) 3

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

執筆の経緯(1:9～11) 4

栄光の王としてのキリスト(1:12～16) 5

幻の解説(1:17～20) 6

★ 七つの教会の意味(1:17～20)

*歴史的・預言的解釈 7

*教会の七つの型

*ぎょうの霊想: 教会に観客席はない

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

7) 1 : 17 ~ 20 「七つの教会の意味」

「1:17 それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。『恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。1:20 わたしの右の手の中に見えた**七つの星**と、**七つの金の燭台**について、その秘められた意味を言えば、**七つの星**は七つの教会の御使いたち、**七つの燭台**は七つの教会である。」

七つの教会の意味
～3つの側面～
「教会の七つの型」

アジアにある7つの教会



7つの教会への手紙 (ヨハネの黙示録 2：1～3：22)

教会名	内 容	キリスト描写	賞 賛	叱 責	奨 励	約 束
エペソ 意味：好ましい (黙 2：1～7) 使徒時代の教会の型 紀元 30 年～100 年頃		・右手に七つの星を持つ方 ・七つの金の燭台の間を歩く方	・行いと労苦と忍耐 ・悪い者たちを追放した ・偽教師たちの教えを拒否した ・ニコライ派の行いを憎んでいる	・初めの愛から離れてしまった	・どこから落ちたかを思い出せ ・悔い改めよ ・初めの行いをせよ	・いのちの木の實を食べる
スミルナ 意味：没薬 (黙 2：8～11) 迫害時代の教会の型 1 世紀～4 世紀		・初めてあり、終わりである方 ・死んで、また生きた方	・貧しさや迫害に耐えている		・苦しみ恐れるな ・死に至るまで忠実であれ	・いのちの冠が与えられる ・第二の死によってそこなわれることはない
ペルガモ 意味：結婚した (黙 2：12～17) 国家教会時代の教会の型 4 世紀～5 世紀		・鋭い、両刃の剣を持つ方	・キリストの名を堅く保っている ・キリストに対する信仰を捨てなかった	・バラムの教えを奉じている人々がいる ・ニコライ派の教えを奉じている人々がいる	・悔い改めよ	・隠れたマナ（栄光のキリスト）が与えられる ・新しい名が記された白い石が与えられる
テアテラ 意味：継続した犠牲 (黙 2：18～29) 暗黒時代の教会の型 6 世紀～15 世紀		・燃える炎のような目を持つ方 ・その足は光り輝くしんちゅうのような方 ・神の子	・行い、愛、信仰、奉仕、忍耐 ・初めの行いにまさる行いをしている	・不品行と偶像礼拝を教える女イゼベルを容認した	・悔い改めよ ・正しい行いと教理を維持せよ	・諸国の民を支配する権威が与えられる ・明けの明星（キリスト）が与えられる
サルデス 意味：逃れる者 (黙 3：1～6) 宗教改革時代の教会の型 16 世紀～17 世紀		・神の 7 つの御霊、および 7 つの星を持つ方	・正しい行い ・生きているとの評判がある	・実は死んでいる	・目をさませ ・死にかけているほかの人たちを力づけよ ・聞いたことを思い出し、それを堅く守り、悔い改めよ	・白い衣を着せられる ・父と天使たちの前で、キリストがその名を言い表す
フィラデルフィア 意味：兄弟愛 (黙 3：7～13) 大宣教時代の教会の型 18 世紀～19 世紀		・聖なる方、真実なる方 ・ダビデのかぎを持っている方	・よい行い ・キリストのことばを守り、その名を否まなかった			・試練の時（大患難時代）から守られる ・神の聖所の柱とされ、神の御名、新しいエルサレムの御名、キリストの新しい名が記される
ラオデキア 意味：人々が支配する (黙 3：14～22) 腐敗時代の教会		・アーメンである方 ・忠実で、真実な証人 ・神に造られたものの根源である方		・熱くも冷たくもない ・生ぬるいので口から吐き出す ・みじめで、衰れで、盲目で、裸の者である	・火で精錬された金をキリストから買え ・裸の恥を隠さないために着る白い衣を買え ・目に塗る目薬を買え	・勝利を得る者は、キリストと食事をする ・キリストとともに統治する

教会時代

教会の携挙と復活の時期
(第一の復活の二組目)

メノアの復活
(第一の復活の初穂)

大患難

2000 + ? 年

この後に起こる事
(4~22章)

主の日

現代

今ある事:教会時代
(2~3章)

宗教的大バビロン大淫婦(17章)

1900~現代

1848~1900年

✕7:ラオデキヤ「人々が支配する」「背信の教会」

1517~1648年

◎6:フィラデルフィア「大宣教時代の教会」「兄弟愛」

600~1517年

◎5:サルデス「逃れ出る」「宗教改革時代の教会」

313~600年

◎4:テアテラ「継続した犠牲」「暗黒時代」

100~313年

◎3:ペルガモ「結婚した」「国家教会」

30~100年頃

◎2:スルナ「迫害時代の教会」「没落」

81~98年

◎1:エベソ「好ましい」「使徒時代の教会」

I あなたの見た事(1章)

主の日:主の栄光が輝きてきた特別な日

IV.結論：この時代に生かされている 特権と責務とは

(1)黙示録のテーマについて

①主の大いなる再臨の日を待ち

その条件であるユダヤ人の民族的回心を祈る。

②その他、黙示録を学ぶ意義

*この書を朗読し、それを聞き、心に留める

*教会理解の枠を広げ、世界の歴史がどこから来てどこに行こうとしているかを学ぶ

(2) 執筆の経緯について

① 迫害の中にいる人々を励ますため。

教会時代の聖徒への「**励まし**」と「**矯正**」が主な経緯

② 今自分が置かれている環境を疎まず、不満に思わない

* 神の臨在は、状況や場所に制限されない。

* ヨハネは、流刑の地を神の啓示を聞く場とした。

(3) 栄光の王としてのキリストについて

- ① 私達を愛し、その血によって
私達を罪から解放して下さい。
- ② 今は祭司として
父なる神の前にとりなしの働きをしていて下さる。
- ③ 七つの金の燭台「七つの教会＝あらゆる時代の教会」の
真ん中に立っておられる、**教会の頭としての主。**
教会時代の聖徒は、その御からだである。
- ④ 教会の中に立って
さばきを始めようとする王なるキリスト。
- ⑤ 今も人類を導き、完成させるお方。
私たちに希望と慰めを与えて下さるお方。

御座にすわる方と、小羊とに、
賛美と栄光と力が永遠にあるように。

黙示録を学ばれる兄弟姉妹に
主の特別な祝福がありますように！
アーメン



第1回講解 おわり

次回の予定

2016/2/27(土) in元町

序言「まえがき」(1:1～3)

あいさつ(1:4～8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

エベソにある教会へ(2:1～7)	8
スミルナにある教会へ(2:8～11)	9
ペルガモにある教会へ(2:12～17)	10
テアテラにある教会へ(2:18～29)	11
サルデスにある教会へ(3:1～6)	12
フィラデルフィアにある教会へ(3:7～13)	13
ラオデキヤにある教会へ(3:14～22)	14

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

{1}大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

{2}大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

{3}大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

{4}反復: 2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

では学んだことを
分かち合いましょう！

